

国立長寿医療研究センター

NCGGセミナー

演題名： 細菌叢・ゲノムから紐解く血管性認知症

演者：猪原匡史 先生

国立研究開発法人国立循環器病研究センター

副院長・脳神経内科部長

令和8年

■ 2月9日(月)



16:00開始



第一研究棟
大会議室

セミナー概要

血管性認知症の中で最も頻度が高い病型である脳小血管病（cSVD）とは小動脈，細動脈，細静脈，毛細血管に影響を及ぼす様々な病理変化を包括した概念である．加齢や高血圧に関連したI型cSVD，脳アミロイド血管症（CAA）のII型cSVD，CADASIL／CARASILを含む遺伝性のIII型cSVDなどが知られる．I型cSVDへの口腔・腸内細菌の関与や治療法の探索，II型cSVDのアミロイド関連異常への関与，III型cSVDに関しては，東アジア特異的な出血指向型CADASILの存在や創薬研究など，cSVD研究は活況を呈している．本セミナーでは，最新のトピックスを中心にcSVD研究をご紹介します．

ご経歴

1995年 京都大学医学部医学科卒業

2003年 京都大学博士（医学）取得

2006年 英国ニューカッスル大学加齢医学研究所研究員
(脳血管研究部門Raj N. Kalaria教授)

2008年 京都大学医学研究科臨床神経学特定病院助教

2011年 京都大学医学研究科臨床神経学助教・病棟医長

2013年 国立循環器病研究センター脳神経内科医長

2016年 国立循環器病研究センター脳神経内科部長

2025年 国立循環器病研究センター副院長（併任）

現在に至る



GSRC秘書室 内線 7182 or 7371